

いまもあしたも誇れる座間であるために...

発行者：おぎはら健司
発行元：座間市相模が丘3-24-2-203
連絡先：046-204-5911 (ファックスも同じ)

おぎはら健司の市政レポート

市民の安全・安心に向けた施策

かねてから進められてきた「海老名市・座間市・綾瀬市」による三市合同の消防指令センターが本年4月より本格的にスタートすると同時に、消防無線がデジタル化されますが、先日、その指令センターを市議会として視察に伺いました。

現在、座間市の消防庁舎はキャンプ座間返還予定地に新庁舎建設が計画されており、平成29年には新たな消防庁舎も完成し、合わせて市民の生命及び財産を守る機能が格段に向上すると期待しています。

新たに開始する三市合同での消防指令センターは相鉄線かしわ台駅直近にあります。

これまで、座間市内からの消防や救急の電話は、緑ヶ丘6丁目にある消防庁舎にある通信司令室で受信し、そこから本庁舎、東分署、そして相模が丘地域を所管する北分署へと出動命令を出すシステムでしたが、今回の施策により、海老名市・綾瀬市・座間市からの消防・救急の連絡は、まとめて消防指令センターが受信し、三市それぞれへ出動命令を出すシステムに変更されます。

こう書くと、機能が向上するという説明に疑問を持たれるかも知れませんが、今回のシステムには最新鋭の機器が導入され、指令センターの情報を管内全ての車両が共有するシステムが導入し、目的地が瞬時に送信される事で車両内での煩わしい作業が不要になるそうです。

また、通報を受信すると、固定電話はもちろん、携帯電話からの通報でもGPS機能を駆使し、現場の把握も瞬時に行えるとの事です。

さらに、別々に起こった数件の通報を同じ事案として対応したり、或いは同じ事案を別のものとして重なって対応をしてしまった例が他自治体では過去にありましたが、それらも4台ある指令台のうち、全体を統括する指揮台が、他の3基の指令台を一括管理する事によって、未然に防ぐ事が可能となっているそうです。

また、三市それぞれの救急車両の運行状況や

消防隊・救急隊の現状を一括把握する事で、市境の部分で火事や救急出動案件が起きた際には即応できる部隊を出動させる事により、速やかに対処できる体制が整うそうで、特に初動が必要な消防・救急ともに効果を期待できると感じました。

また、4基ある指令台はそれぞれを3分割して指令台として使用することも出来るとの事で、中規模災害(ゲリラ豪雨や台風等)の際には4台×2名=8台体制で、大規模災害(首都直下型地震等)では、4台×3名=12台体制で対応が可能との事で、災害時の拠点としては相応の施設が完成したと思います。

現在、三市合わせた人口は約34万2千人、世帯数は約14万世帯ですが、平成25年度における緊急出動件数は、火災件数は海老名市が38件、座間市が39件、綾瀬市が28件となっており、救急出動件数は海老名市から順に、6,218件、5,355件、3,614件となっていますが、119番受信件数は同様に9,101件、10,095件、6,691件で、座間市では119番件数が突出して多くなっています。

要因を伺ったところ、緊急性を要さない通報が多いそうで、つまりは「タクシー代わりに救急車を使って病院に行こう」というような通報が多いそうです。救急車利用の際、『いざ!』という時に車両が出払ってしまい、助かる命も助からなくなるリスクが生じますので、周囲に対しても注意喚起をする必要があります。

また、座間市が行っているサービスのうち、聴覚障害者の方のためのファックス通信による救急要請は今回の移行から、WEB通信によるチャット機能が導入され、その説明会が3月7日に行われるそうです。

なお、通報先が移行するのは、座間市消防は3月5日を予定しており、複数回線ある119番通報の受信先を一つずつ移して確認をするという作業が行われます。他自治体では、この作業をしている時が一番混乱しやすい時となるそうで、細心の注意を払って行われるとの事でした。